

JANOG42Meeting 参加レポート

中京大学 工学部 情報工学科 4年
T315048 鈴木 真

1. はじめに

私は2018年7月11日から13日まで行われたJANOG42 Meetingに若者支援プログラムを利用し参加するとともにOrgスタッフとしても参加した。本レポートはその参加報告である。

2. JANOG Meeting への参加

2.1 本会議へ参加した感想

JANOGMeetingは2度目の参加となるが、今回参加した目的はエンジニアの交友関係を広げることである。なぜなら学内ではエンジニアの方と関わる機会は少なく、ネットワークに関わる人は更に少ないからだ。

印象に残ったプログラムはIPv6のアドレス番号計画だ。このプログラムでは発表者がそれぞれのIPv6のアドレスの割り振り方を話し、会場の人達に疑問を投げかけていた。この様子からJANOGMeetingの本質は皆で助け合うことだと考えた。なぜならその議論の様子は競合企業などの隔たりはなくエンジニア同士がお互いの意見を出し合いどうすれば更に良くなるかを目的とし議論しているように見えたからだ。

今後の目標として次回JANOG43にて学生団体の活動内容を発表することである。現在私の所属する学生団体での活動は未だに外部に向けて明確な発表を行ったことがないためネットワークのエンジニアが集まるJANOGMeetingという場で活動報告ができると良いと考える。

2.2 若者支援プログラムの改善

若者支援プログラムの参加者は本会議2日目の昼休み時間に集まることになっているが、最近のJANOGMeetingでは同じ時間帯にランチ企画が行われているため集まる時間をずらすことでランチ企画への参加が容易になるのではないかと考える。

3. JANOG Org スタッフ

3.1 Org スタッフの感想

Orgスタッフとして参加した理由はJANOGというコミュニティに深く関わり交友関係を広げるためである。初めてスタッフを経験した感想としてスタッフ活動が始まり出す頃からより積極的に意見を出すべきだったと考える。なぜなら意見を出すのが遅くなったことで企画を詰めることが十分に行えなかったからだ。今回初めてスタッフを経験する方が多く、スタッフが活動を始めた頃はSlackでの会話も少なく私は意見を出すことを躊躇っていた。本会議を終えてみると私だけでなく他の初スタッフの方々も同じように感じており、何をすれば良いのか分からないという意見が多かった。このようなことから分からないことは分からないと周りに頼ることの重要性に気付かされた。

3.2 自身の担当した企画

私は Org スタッフの役割の中で主に本会議中の 2,3 日目に行われるランチ企画を担当した。ランチ企画のコンセプトとしては多くの参加者が新しいつながりを広げる場にするのであった。しかし、実際のランチ企画において知人同士で固まって昼食を取る様子が多く見られた。ランチ企画を担当していた私としては知らない人達と一緒に昼食を取ることによって新たな繋がりが生まれると考えており、数少ない交流の場を有効に利用して欲しい思いがあったため、今回の結果になったことは少し残念だ。この点は次回のランチ企画で改善する必要がある。

4. まとめ

JANOGMeeting は一般での参加ではプログラムの内容を発表者と議論し合う場であったり発表を通じて参加者同士が新たなつながりを広げる場であったりするため大変有意義なミーティングである。しかし初めて Org スタッフとして参加し、一般での参加とスタッフとしての参加では 1 回の JANOGMeeting の価値が大きく異なると思う。その理由はスタッフの視点での JANOGMeeting はホスト企業の方々を始め多くの人と協力し 1 つのイベントを作り上げ成功させたいという思いが強くなるからである。その結果 JANOGMeeting を無事終えたときの達成感は非常に大きなものだった。